令和８年９月２８日
農推第１３５３－６号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
特に発生に注意(10月)【なす:アザミウマ類、野菜類:コナジラミ類、シロイチモジヨトウ)】	1～2
病害虫の発生予報(10月)	3
野菜【ねぎ、きゅうり、野菜類)】	4～6
果樹【みかん、果樹類】	7～8
その他注意すべき病害虫【もも:せん孔細菌病、ぶどう:べと病、クビアカツヤカミキリ】	8～9

特に発生に注意(10月)①

なす:アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマの被害果実



ミナミキイロアザミウマ成虫※



ミカンキイロアザミウマの被害果実

特徴

- ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、水なすで目立つ。
- ヒラズハナアザミウマは水なすの果実を加害する。

防除のポイント

- 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。
- 開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場および周辺の除草を徹底する。
- 発生を認めたら、**モベントフロアブル、アファーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤**等を散布する。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫発生予察注意報第5号「なす　アザミウマ類」(令和8年9月4日発出)もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2606 r8cyuihou05 nasuazamiuma.pdf

次回の情報は10月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

特に発生に注意(10月)②

野菜類:コナジラミ類



コナジラミ類が
発生した葉＊



タバココナジラミ
成虫※

特徴

- ◆ 現在、府内のなすやきゅうり、トマトなどで発生が見られるのは、ほとんどがタバココナジラミである。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミはウイルス(CCYV※1、TYLCV※2、ToCV※3)を伝搬する。

※1　キュウリ退緑黄化病の病原ウイルス
※2　トマト黄化葉巻病の病原ウイルス
※3　トマト黄化病の病原ウイルス



キュウリ退緑黄化病
発症株※



トマト黄化葉巻病
発症株

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張し、成虫の侵入を阻止する。
- ◆ 施設周辺及び内部の除草を徹底する。
- ◆ ウイルス病の感染株は、施設外へ持ち出し処分する。
- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ **ベストガード水溶剤**(なす、トマト、ミニトマト、きゅうりなど)、**アグリメック**(なす、トマト、きゅうりなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫発生予察注意報第6号「コナジラミ類」(令和8年9月9日発出)もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2609 r8cyuihou06 konajirami.pdf

野菜類:シロイチモジヨトウ



老齢幼虫



卵塊とふ化幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、卵塊の除去及び集団でいる発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、**ディアナSC**(ねぎなど)、**コテツフロアブル**(ねぎ、キャベツ)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫発生予察注意報第3号「シロイチモジヨトウ」(令和8年6月30日発出)もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2606 r8cyuihou03 siroichimojiyoto.pdf

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

病害虫の発生予報（10月）

作物名	病害虫名	予想発生量（10月）
なす	うどんこ病	やや少ない
	アザミウマ類	多い
ねぎ	ネギアザミウマ（えそ条斑病）	やや多い
きゅうり	べと病	平年並
	うどんこ病	平年並
	褐斑病	平年並
	アザミウマ類 （ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病）	平年並
	コナジラミ類 （タバココナジラミ：退緑黄化病）	多い
野菜類 （キャベツ等）	シロイチモジヨトウ	多い
	ハスモンヨトウ	やや多い～多い
	オオタバコガ	やや多い
	コナガ	やや少ない～平年並
	コナジラミ類	多い
	アブラムシ類	平年並～やや多い
	ハダニ類	やや多い
みかん	黒点病	平年並
	ミカンハダニ	やや少ない
	ミカンサビダニ	やや多い
	カイガラムシ類	やや少ない～平年並
果樹類	果樹カメムシ類	平年並～やや多い

※予想発生量は、平年値（概ね過去10年の平均）に比べて、「多い・やや多い・並・やや少ない・少ない」の5段階で示しています。
※ねぎは令和5年度より調査開始のため、過去2年のデータを平年値としています。
※予報の根拠は下記ホームページ内の「病害虫発生予察情報」の該当月をご確認ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜

ねぎ

ネギアザミウマ（えそ条斑病）



えそ条斑病の被害葉と
ネギアザミウマ成虫

特徴

- ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。
- ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するIYSV（アイリスイエロースポットウイルス）によるウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が拡大して融合し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するネギアザミウマの防除を徹底するとともに、発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- IYSVは一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ネギアザミウマの発生を認めたら、**グレーシア乳剤（アザミウマ類）、ディアナSC（アザミウマ類）**等を散布する。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

きゅうり

うどんこ病



被害葉＊

特徴

- 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- はじめ株の下位葉に小麦粉をかけたような病斑ができる。しだいに上の葉に広がり、葉面全体が白色の粉を振りかけたようになる。

防除のポイント

- 施設内の換気を良好にする。
- 被害葉を除去し、通風を良くする。
- 発生が見込まれる時期に、**ベルクート水和剤、フルピカフロアブル**等を、発生を認めたら、**トリフミン水和剤、ケンジャフロアブル**等を散布する。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜

褐斑病



被害葉

特徴

◆ 高温、多湿の施設栽培で発生が多い。
◆ 天井フィルムからの結露水のボタ落ちで発病が助長される。
◆ はじめ葉に円形・褐色の小型病斑を生じ、やがて灰褐色の５～10mm程度の不規則な病斑になる。多湿条件では病斑上に黒褐色のカビが生える。

防除のポイント

◆ 施設内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
◆ 発生が見込まれる時期に、**ジマンダイセン水和剤**／**ペンコゼブ水和剤**、**プロポーズ顆粒水和剤**等を、発生を認めたら、**パレード20フロアブル**、**カンタスドライフロアブル**等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜類

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

◆ あぶらな科野菜、なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

◆ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を行う。また、卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
◆ 発生を認めたら、**アニキ乳剤**（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類、なす、など）、**プレオフロアブル**（さといも、キャベツ、しゅんぎく、なすなど）、**ヨーバルフロアブル**（キャベツ、なす、さといもなど）等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

「ヨトウムシ類の見分け方と防除」（平成13年3月作成）もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/yotoumushirui_osaka.pdf

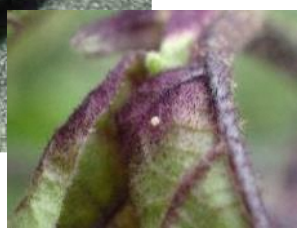
※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

オオタバコガ



幼虫



卵

特徴

◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

◆ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。また、摘除した茎葉や果実に、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し、処分する。
◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、早めに対応を行う。
◆ 発生を認めたら、**アニキ乳剤**（なす、キャベツなど）、**プレバソンフロアブル5**（なす、トマト、ミニトマトなど）等を散布する。

病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」（令和8年6月30日発出）もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/129571/2606_r8cyuihou02_otabakoga.pdf

コナガ



幼虫※



成虫※

特徴

◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

◆ 発生初期に防除を行う。
◆ 発生を認めたら、**グレーシア乳剤**（結球あぶらな科葉菜類、非結球あぶらな科葉菜類など）、**アファーム乳剤**（キャベツ、こまつなど）等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

◆ 発生を認めたら、**スタークル／アルバリン顆粒水溶剤**（なす、きゅうり、しゅんぎくなど）、**トランスフォームフロアブル**（なす、トマト、きゅうりなど）、**ウララDF**（なす、トマト、ミニトマト、きゅうりなど）等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

みかん

ミカンサビダニ



被害果

特徴

◆ 梅雨明け後に発生が多くなりやすい。

防除のポイント

◆ 発生の初期に、**ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤**等を散布する。
◆ **ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤**に対して薬剤抵抗性が生じている地域では、**コテツフロアブル**(かんきつ)、**ダニエモンフロアブル**(かんきつ)等を散布する。

◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※注意！
ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤は、かんきつ(みかんを除く)における使用時期が「収穫90日前まで」なので注意する。また、皮膚のかぶれに注意する。

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシの被害果

特徴

◆ ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)等が加害する。

防除のポイント

◆ 発生の多い園地では、防除を徹底する。
◆ 幼虫発生期に**モスピラン顆粒水溶剤**(かんきつ)、**トランスフォームフロアブル**(かんきつ)等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

幼虫発生期
ナシマルカイガラムシ:5月下旬～6月中旬、8月上旬～中旬
ヤノネカイガラムシ:5月下旬～6月下旬、8月中旬～9月上旬

貯蔵病害



緑かび病

特徴

◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

防除のポイント

◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
◆収穫前に**ベンレート水和剤**(青かび病、緑かび病、軸腐病、炭疽病、黒斑病)や**ベルクートフロアブル**(青かび病、緑かび病、白かび病、黒腐病)などを散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹類

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

特徴

◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。
◆ 園地により飛来量が大きく異なる可能性があるので、園内を見まわり発生及び被害状況を確認する。

防除のポイント

◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
◆ 発生を認めたら、**スタークル／アルバリン顆粒水溶剤**（かんきつ、ぶどう、かきなど）、**アディオン乳剤**（かんきつ、かきなど）等を散布する。
◆ 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
◆ スギ林やヒノキ林の隣接ほ場では、被害が多くなる傾向があることから特に飛来状況に留意する。

その他　注意すべき病害虫

果樹：もも

せん孔細菌病



夏型枝病斑

特徴

◆ 新梢の枝の病斑（夏型枝病斑、サマーキャンカー）から秋期に病原細菌が飛散し、当年枝の皮目や落葉痕から侵入感染し、越冬する。
◆ この越冬した病原細菌が、翌春になると増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じ、次作の伝染源となる。
◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

◆ 夏型枝病斑が見られる枝は除去し、ほ場外に持ち出して処分する。
◆ 発生が多かったほ場では**ムッシュボルドーDF**や**ICボルドー412**等を散布する。
◆ **ICボルドー412**は高温時や散布直後の降雨は薬害の恐れがあるので、注意する。
◆ 風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹：ぶどう（収穫後防除）

べと病



葉裏の症状



葉表の症状

特徴

◆ 雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
◆ 発生を認めたら**レーバスフロアブル**、**ホライズンドライフロアブル**などを散布する。

果樹：バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ



フラス



幼虫　　成虫

特徴

◆ 成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。 成虫は6～8月頃に羽化する。
◆ 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で、中華麺～うどん状の太さに固まる）を排出する。

防除のポイント

◆ フラスの発生を見逃さないように、ほ場をよく見回る。
◆ フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから**ロビンフッド**（もも、すもも、うめなど）を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策（R8.5改訂版）」もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kubiaka2605.pdf

第45回 全国豊かな海づくり大会
令和8年11月14日（土）・15日（日）開催
式典行事：南海浪切ホール（岸和田市）
関連行事：府営りんくう公園（泉佐野市）

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。